

十 全 會 雜 誌

第40卷 第11號 (第363號)

昭和10年11月1日發行

原 著

北陸地方ニ於ケル聾啞兒ノ研究

第4. 聽覺ニ就キテ

金澤醫科大學耳鼻咽喉科教室 (主任松田教授)

豊 田 文 一

石 黒 寛

前 田 義 雄

(昭和01年1月11日受附)

目 次

第1章 緒 言	第4章 検査成績
第2章 文 獻	第5章 總括
第3章 被檢人員並ニ検査方法	引用文獻

(本論文ノ大要ハ昭和7年10月第32回北陸醫學會ニ於テ發表セルモノナリ)

第1章 緒 言

殘聽利用ハ聾啞教育殊ニ口話法教授ニ於ケル主要原理ニシテ、假令其ノ聽力實用ニ供スル能ハズト雖モ、言語及ビ智能ノ發達ハ視法ノミニヨルモノノ速ク及ブ所ニアラザルハ特殊教育家ノミナラズ、醫家モ亦認ムル所ナリ。從ツテ聾啞兒ニ就キ其ノ聽覺程度ヲ知ルハ聾啞教育者ノ立場ヨリシテ極メテ有意義ナルコトナリ。然レ共此ノ如キ調査ハ本邦各地ノ聾啞學校ニ遍ネカラズ。殊ニ當地方ニ於テ未ダ之ヲ聞カズ。著者等ハ石川縣立聾啞學校全兒童ニ就キ、詳細ナル聽力検査ヲ遂ゲ、以テ聾啞教育進展ノ一端ニモ資セント欲シ、此處ニ検査成績ヲ敘述セントスルモノナリ。

第2章 文 獻

サテ聾啞ノ聽覺ニ就キ注目シ、之ガ系統的ノ調査ヲナセルハ Pfingsten ニシテ、氏ハ聾啞教育ニ從事スルニ當リ、聾啞兒ニ對シ「アルファベット」ノ音ヲ標準トシテ聾啞兒ノ聽覺ヲ檢

シ、其ノ結果ニヨリ學級編成ヲ行ヘリ。其後1800年ノ初頭ニ至リ Itard ハ會話語、時計、扉ノ開閉音、銃砲ノ音ヲ基本トシ、聾啞ノ聽覺ヲ分類シタルハ可ナリ科學的傾向ヲ帶ビタルモノト云フベシ。Schmalz ハ會話語ノ聽取可能ナルモノ、騒音(笛聲、銃聲、雷鳴)ノ聽取可能ナルモノ、及ビ之等ノ聽取不能ナルモノノ3種類ニ分別シタリ。之ニ準據シ Meissner, Toybee 等ハ聾啞聽覺ニ就キ Schmalz ノ業蹟ヲ追試スル所アリタリ。Hartmann ハ又4種類ニ區別シ、全聾、鐘聲ヲ聽取シ得ルモノ、人聲ヲ聽取シ得ルモノ及ビ人語ヲ聽取理解シ得ルモノトシ、865名ノ聾啞中全聾 60.2%、鐘聲ヲ聽取シ得ルモノ 24.3%、人聲ヲ聽取シ得ルモノ 11.2%、人語ヲ聽取理解シ得ルモノ 4.3% ノ成績ヲ得タリ。

上述ノ方法ニヨル聽覺ノ分類ハ幾分粗雜ノ謗ヲ免レズ。系統的ニ聽覺ノ存否ヲ知り得ルハ連續音又ニヨル 検査ニシテ、現今最モ多ク使用サルハ Bezold-Edelmann 氏ノ連續音又ナリ。Bezold ハ該音又ヲ用ヒテ人ノ耳ノ聽覺機能ヲ分析シ、且ツ又聾啞ノ聽覺殘遺ノ發見上缺ク可カラザルモノト稱セリ。即チ人聲、或ハ諸種器具ニヨル音響ヲ以テセル 検査法ニテ聽覺ノ發見不能ナリシモノモ、連續音又ニヨリ之ヲ發見セシコト尠ナカラズ。

Bezold ガ 1893年 München 聾啞學校生徒 79名 158耳ニ就キ 連續音又ヲ使用シ 聽覺ヲ檢セルハ其ノ嚆矢ニシテ、聾啞ノ研究上一大進歩ト稱スベク、其ノ成績ハ又權威アルモノニシテ、全聾 48耳(30.4%)、聽覺殘遺ノモノ 108耳(68.4%)、他ノ2耳ハ確定不能ナリシモノナリ。即チ之ニヨリ聾啞生中全ク聽覺ヲ有セザルモノ(完全聾)及ビ一定ノ音階ニ對シ聽覺ヲ有スルモノニ分別セラレタリ。其後諸家ニヨリ Bezold ニ倣ヒテ聾啞ノ聽覺検査ヲ行ヒ、有益ナル業蹟ノ發表ヲ見タリ。

試ミニ文獻ニ記載サレタルモノヲ摘録スレバ次表ノ如シ。

即チ上表ニ觀ルガ如ク完全聾ト部分聾トハ一定ノ比率ヲ有セズ、調査者ニヨリ甚シキ差異ヲ示ス。加藤氏ノ成績ハ總テ部分聾ニシテ、完全聾ヲ認メズ。

第1表 完全聾及ビ部分聾ニ關スル諸家ノ統計

調査者	年代	完全聾	部分聾
Bezold	1893	28.5%	71.5%
Bezold	1898	28.8 "	71.2 "
Barth	1899	65.5 "	34.5 "
Passow	1899	21.4 "	78.6 "
Passow	1899	32.0 "	68.0 "
Lüscher	1899	7.7 "	92.3 "
Schwendt Wagner	1899	26.4 "	73.6 "
Beleites	1899	17.6 "	82.4 "
Kickhefel	1899	17.2 "	82.8 "
Denker	1900	49.2 "	50.8 "
Barnick	1900	30.2 "	69.8 "
Hasslaner	1900	54.5 "	45.5 "
Wanner	1901	29.1 "	70.9 "
Rundström	1901	13.0 "	87.0 "
Presbradsensky	1901	53.0 "	47.0 "
Schmiegelow	1901	54.5 "	45.5 "
Schubert	1902	25.0 "	75.0 "
Köbel	1902	27.6 "	72.4 "
Treitel	1902	51.1 "	48.9 "
Brühl	1903	43.9 "	56.1 "
Lannois Chavanne	1903	62.2 "	37.8 "
Nager	1903	28.1 "	71.9 "
Falkowitsch	1905	12.9 "	87.1 "
Brock	1907	36.7 "	63.3 "
Alexander	1908	47.1 "	52.9 "
Mackenzie	1910	62.0 "	38.0 "
加藤 納	1910	62.0 "	38.0 "
Guglielmetti	1913	18.6 "	81.4 "
Schönlank	1920	17.3 "	82.7 "
Wodack	1920	29.6 "	70.4 "
Kompaneiez	1925	58.0 "	42.0 "
加藤 藤	1928	0 "	100.0 "
内田	1928	59.2 "	40.8 "
辰己	1930	21.5 "	78.5 "
二宮、曾木、成瀬	1933	57.1 "	42.9 "

Lanois u. Chavanne ハ 62.2%, 加納氏ハ 62.0% ノ完全聾ヲ認メタルモ, Rundström ハ 13.0%, Falkowitsch ハ 12.9%, Luscher ハ 7.7% ノ低率ナリ。加藤氏ノ調査ハ「オーディオメーター」ニヨリ聴覺ヲ檢シタルモノニシテ, 近藤氏ノ云ヘルガ如ク聾啞兒聽力検査ニ際シ「オーディオメーター」ニヨリ際「レシーバー」ヲ耳ニ當テル爲骨導ノ存在ヲ避クル能ハズ, 之ニヨリ聴覺診査ノ誤謬ヲ生ズルコトヨリ, Bezold-Edelmann 氏音叉ヲ使用スルニ如カズト云ヘリ。或ハ然ラン。

諸家ノ統計ニヨレバ部分聾ハ完全聾ニ比シ多數ヲ占ム。上表ヨリ完全聾多數ト認ムルモノ 10 氏, 部分聾多數ト認ムルモノ 24 氏ニシテ約 7 割ハ部分聾多數ナリト報告セリ。

斯クノ如ク聾啞ハ完全ニ聴覺ヲ消失セズ, 一定ノ聴覺殘遺者比較的多ク, 而モ此ノ聽遺ニハ種々ノ階級アリ。即チ音階ノ上部ノミヲ聴覺シ下部ハ全ク缺損セルモノ, 或ハ之ニ反スルモノ, 其ノ中間ノミヲ聴取シ得ルモノ等多數ノ種類アリ。Bezold ハ之ヲ 6 種ニ分類セリ。之レ聴覺検査上, 一般ノ標準トシテ學者ノ賞讃スル所ナリ。

即チ

第 1 類 聽嶼ヲ有スルモノ(但シ 1 列ノ聽遺 3 オクターフ以下)。

第 2 類 聽隙ヲ有スルモノ(但シ 1 列ノ聽遺 3 オクターフ以上)。

第 3 類 音階ノ上半部 g_2 ニ至ルマデ缺除セルモノ。

第 2 表 部分聾ノ Bezold 氏分類法ニヨル諸家ノ統計

調査者	年代	被檢耳數	完全聾	第 1 類	第 2 類	第 3 類	第 4 類	第 5 類	第 6 類
Bezold	1893	158	30.4%	17.7%	12.7%	0.6%	5.1%	11.4%	20.9%
Bezold	1898	118	28.8 "	15.3 "	5.9 "	4.3 "	5.9 "	8.5 "	31.4 "
Barth	1898	174	65.5 "	5.2 "	9.8 "	1.2 "	3.5 "	2.3 "	10.8 "
Schwendt Wagner	1899	94	26.6 "	30.0 "	5.3 "	0 "	2.1 "	5.3 "	29.9 "
Kickhefel	1899	58	17.2 "	5.2 "	22.4 "	0 "	20.7 "	3.4 "	31.1 "
Beleites	1899	68	17.6 "	11.7 "	27.9 "	0 "	8.8 "	10.3 "	23.5 "
Lüscher	1899	26	7.7 "	15.4 "	3.8 "	0 "	23.1 "	3.8 "	42.3 "
Denker	1900	126	49.2 "	24.6 "	5.6 "	3.2 "	3.2 "	2.4 "	12.0 "
Schmiegels	1901	368	36.4 "	12.5 "	17.1 "	1.4 "	8.7 "	4.4 "	19.6 "
Hasslaner	1901	178	54.5 "	10.7 "	6.2 "	0.6 "	2.8 "	10.1 "	15.2 "
Schubert	1901	144	25.0 "	9.0 "	12.5 "	0.7 "	9.1 "	9.7 "	34.0 "
Wanner	1901	216	29.1 "	13.9 "	6.5 "	3.3 "	6.9 "	10.2 "	30.1 "
Köbel	1902	58	27.6 "	18.9 "	10.4 "	0 "	1.7 "	0 "	41.4 "
Köbel	1902	76	42.1 "	5.3 "	13.2 "	2.6 "	0 "	2.6 "	34.2 "
Falkowitsch	1903	62	12.9 "	8.0 "	19.3 "	0 "	4.8 "	27.4 "	27.4 "
Nager	1903	96	28.1 "	5.2 "	5.2 "	1.0 "	0 "	17.6 "	67.9 "
Brock	1907	98	36.7 "	6.1 "	6.1 "	3.0 "	5.1 "	10.2 "	32.5 "
加納	1910	150	62.0 "	5.3 "	1.3 "	0.7 "	2.7 "	2.7 "	25.3 "
Kompanejetz	1925	76	58.0 "	19.7 "	9.2 "	6.6 "	1.3 "	0 "	5.3 "
内田	1928	238	59.2 "	4.6 "	5.0 "	5.0 "	5.9 "	5.5 "	7.6 "
辰巳	1930	158	21.5 "	34.8 "	9.5 "	2.5 "	8.9 "	7.6 "	15.2 "
二宮, 曾木, 成瀬	1933	156	57.1 "	19.9 "	9.0 "	0.6 "	3.2 "	3.8 "	5.1 "

第4類 音階ノ上端及ビ下端ヲ缺除セルモノ。

第5類 音階ノ下端ニ於テ4オクターフ以上ノ音階ヲ缺除シ、上端ニ於テ僅ニ缺除セルカ、或ハ全然ナキモノ。

第6類 音階ノ上部ハ全ク缺除セザルカ、或ハ僅ニ缺除セルノミニシテ、下部ハ4オクターフ未滿ノ音階ヲ缺除セルモノナリ。

此ノ如キ分類法ニヨリ部分聾ノ詳細ナル検索ヲ遂ゲシモノ尠ナカラズ。諸家ノ調査セル成績ヲ表示スレバ第2表ノ如シ。

諸家ノ統計ニヨレバ一般ニ第6類ニ屬スルモノ甚ダ多ク、次デ第1類、第2類ニシテ、他ハ低率ヲ示スコト多シ。然レ共本邦聾啞兒ニ於テノ辰巳氏(大阪地方)・二宮・曾木・成瀬氏等(熊本地方)ノ統計ニヨレバ、諸外國ノモノト趣ヲ異ニシ共ニ第1類ノ多數ヲ占ムルハ注目ニ價ス。

聾啞ノ原因別ニ就キテモ聴覺状態ヲ検索スルハ興味アル事實ニシテ、且ツ其ノ結果ヨリ聾啞聽器ノ侵襲部位モ推論シ得ル所尠ナカラズ。諸家ノ統計ヲ摘記スレバ次ノ如シ。

即チ諸家ノ調査セル成績ニヨレバ完全聾ハ後天性聾啞ニ於テハ先天性ニ比シ遙ニ多シ。上記ノ14統計中先天性聾啞ノ完全聾多シト認ムルモノ僅ニ3統計ニ過ギズ。又他方聽器侵襲状態ニ就キテモ此ノ如キ成績ヲ以テ考察スレバ後天性聾啞ハ先天性ニ比シ蝸牛殻ヲ犯サルコト甚シキモノノ如シ。

第3表 先天性並ニ後天性聾啞ノ完全聾比率ニ關スル諸家ノ統計

調 査 者	年代	先天性聾啞	後天性聾啞
Bezold	1893	23.7%	41.4%
Bezold	1898	16.7%	32.7%
Barth	1898	58.8%	42.1%
Schwendt Wagner	1899	17.6%	37.5%
Kickhefel	1899	13.6%	16.7%
Hasslaner	1900	35.2%	60.0%
Denker	1900	38.8%	59.2%
Treitel	1903	30.0%	70.0%
Nager	1903	22.7%	34.1%
加 納	1910	65.1%	59.7%
Guglielmetti	1912	9.0%	30.0%
Wodack	1920	31.5%	37.5%
内 田	1928	52.8%	82.1%
二宮, 曾木, 成瀬	1933	61.3%	51.5%

第3章 被檢人員並ニ検査方法

被檢人員ハ石川縣立聾啞學校兒童全員ナルモ、聾啞兒ノ聽力検査ハ比較的困難ニシテ、聾啞者幼少ナルカ、或ハ智能發達惡シキモノニ於テハ更ニ困難ニシテ往々ニシテ全ク不能ナルコトアリ。又ハ檢者トノ意志通ゼザルコト多ク、危惧ノ感ヲ懷カシムルコト尠ナカラザリシヲ以テ、聽力検査ニ際シテハ、聾啞學校教師或ハ保護者ノ同伴ヲ求メ之ガ検査ヲ遂行セリ。

検査ハ Bezold-Edelmann 氏音叉ヲ使用セリ。蓋シ聾啞兒ハ検査ニ際シ聴取セントスル努力ヨリ、音叉ノ振動セザルニ聴取シワルト答フルモノアリ、爲ニ數回ノ検査ヲ繰リ返ヘセルコト再三ナラズ。故ニ檢者ハ大ナル忍耐ト努力トヲ拂フニアラザレバ正確ヲ期シ難シ。音ノ傳波ハ氣壓、溫度、濕度等ニヨリテ變化スルモノナルモ、著者等ノ検査ハ6月ヨリ10月迄ニ行ヒシモノニシテ、音ニ對スル氣象ノ影響ハ考慮ノ中ヨリ除外セリ。且ツ検査ハ午後3時ヨリ午後7時頃迄ニ行ヒシモノニシテ、本教室ニ未ダ無響室ノ設備ナキヲ遺憾トスルモ、検査室ハ最も閑靜ナル室ヲ選ビ、可及的外界ノ影響ヲ避ケタリ。

此ノ如クシテ正確ト信ズルニ足ル被檢人員53名106耳ヲ得タリ。

第4章 検査成績

サテ聾啞兒ノ聽覺ヲ完全聾ト部分聾ニ分チテ之ヲ觀察スルニ 53名 106耳中完全聾、35耳即チ 33.0%、部分聾 71耳即チ 67.0%ニシテ、聽覺未ダ殘存セルモノ遙ニ多數ヲ占ムルモノニ

第4表 検査成績(1)聾啞兒ノ聽覺

原因別	程度	完全聾	部分聾	合計
先天性聾啞		25耳	37耳	62耳
	%	40.3	59.7	100
後天性聾啞		10耳	34耳	44耳
	%	22.7	77.3	100
合計		35耳	71耳	106耳
	%	33.0	67.0	100

シテ、一般ニ先進諸家ノ調査成績ノ示ス如ク聾啞ニ於テ部分聾多シトイフ事實ニ相一致セルモノナリ。

之ヲ失官原因ニ從ヒテ分別スルニ、先天性聾啞ニ於テハ 31名 62耳中完全聾 25耳(40.3%)、部分聾 37耳(59.7%)、後天性聾啞 22名 44耳中完全聾 10耳(22.7%)、部分聾 34耳(77.3%)ニシテ、共ニ部分聾高率ヲ示セルモ、後天性聾啞ニ於テハ先天性聾啞ニ比シ、部分聾遙ニ多

キ結果ヲ得タリ。之レ諸家ノ調査成績ニ相反スルモノノ如キモ、著者等ノ調査ニヨル被檢人員ニ於テハ聽器蝸牛殼ノ侵襲セラル、コト先天性聾啞ニ於テハ後天性聾啞ニ比シ甚シキモノト思惟セラル。

次ニ部分聾ヲ Bezold ノ分類ニ從ヒ 6類ニ分別シテ觀察スレバ次表ノ如シ。

第5表 検査成績(2) Bezold 氏分類法ニヨル統計

原因別	程度	完全聾	第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類
先天性聾啞		25耳	19耳	8耳	1耳	2耳	3耳	4耳
	%	40.3	30.7	12.9	1.6	3.2	4.8	6.5
後天性聾啞		10耳	12耳	7耳	1耳	0	4耳	10耳
	%	22.7	27.3	15.9	2.3	0	9.1	22.7
合計		35耳	31耳	15耳	2耳	2耳	7耳	14耳
	%	33.0	29.2	14.2	1.9	1.9	6.6	13.2

即チ部分聾中第1類ニ屬スルモノ 29.2%ニシテ最多ヲ示シ次デ第2類第6類ノ順序ニアリ、他ハ比較的尠シ。此ノ成績モ亦西歐ニ於テ調査セラレタル第6類多數ヲ占ムコトノ多キ事實ニ反スルモ、本邦聾啞兒ニ就キ調査セル辰巳氏及ビ二宮・曾木・成瀬氏ノ成績ニ相似タルモノアルハ興味アルトコロナリ。

第6表 検査成績(3)先天性聾啞聽覺細別表

分類	程度	完全聾	第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類
血縁關係アルモノ		6耳	7耳	6耳	0	1耳	1耳	1耳
	%	27.4	31.7	27.4	0	4.5	4.5	4.5
血縁關係ナサモノ		19耳	12耳	2耳	1耳	1耳	2耳	3耳
	%	49.5	30.0	5.0	2.5	2.5	5.0	7.5

更ニ先天性聾啞中其ノ兩親ニ血縁關係アルモノト然ラザルモノニ分別シ、其ノ聽覺ニ就キ細別スレバ第6表ノ如シ。

即チ血縁關係アルモノ11名22耳中完全聾6耳27.4%ナルニ、血縁關係ナキモノ20名40耳中完全聾19耳49.5%ニシテ、前者ニ於テハ蝸牛殻ノ犯サル、コト後者ニ比シ僅少ナリト云フベシ。而シテ兩者共ニ第1類多數ヲ占メ、次デ前者ハ第2類、後者ハ第6類ナリ。

更ニ後天性聾啞ノ原因別ニヨリテモ、聽能程度ヲ調査セルニ次表ノ如ク、

第7表 検査成績 (4)後天性聾啞原因別ニヨル聽覺細別表

	完全聾	第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類	合計
麻疹	2耳	0	3耳	0	0	0	5耳	10耳
腦及ビ腦膜疾患	4耳	4耳	1耳	0	0	1耳	0	10耳
耳疾患	3耳	1耳	2耳	0	0	1耳	3耳	10耳
外傷	1耳	4耳	0	1耳	0	0	2耳	8耳
腸チフス	0	1耳	0	0	0	1耳	0	2耳
肺炎	0	1耳	0	0	0	1耳	0	2耳
佝僂病	0	1耳	0	0	0	1耳	0	2耳
合計	10耳	12耳	6耳	1耳		5耳	10耳	44耳

麻疹、腦及ビ腦膜疾患ニヨルモノ及ビ耳疾患ニ起因スルモノ各々10耳中、完全聾ハ腦及ビ腦膜疾患ニヨルモノ最モ多ク4耳、次デ耳疾患ニヨルモノ3耳、麻疹ニヨルモノ最モ少ク2耳ナリキ。外傷ニヨルモノ8耳中完全聾僅ニ1耳ニシテ、他疾患ニヨルモノハ症例數尠ナキモ、總テ完全聾ヲ認メズ。症例ノ少數ナルヲ以テ斷言スルハ不可ナルモ、著者等ノ調査セル聾啞兒ニ就テハ腦及ビ腦膜疾患ニ因ルモノ蝸牛殻ヲ犯サル、コト最モ甚シク、次デ耳疾患、麻疹ニヨルモノノ順ニアリ。次ニ聾啞兒個々果シテ兩耳共完全聾ナルカ、或ハ部分聾ナルカ、若シクハ兩耳共聽覺殘存セルカハ興味アル事柄ニシテ、之ガ調査ヲ行ヒタル成績次表ノ如シ。

第8表 検査成績(5)

聾啞種類 聽覺分類	聾啞種類		合計
	先天性聾啞	後天性聾啞	
兩耳共完全聾	9 (29.0%)	3 (13.6%)	12 (22.6%)
一耳完全聾 一耳部分聾	7 (22.6%)	4 (18.2%)	11 (20.8%)
兩耳共部分聾	15 (48.4%)	15 (68.2%)	30 (56.6%)
合計	31	22	53

53名中兩耳共完全聾ナルモノ12名(22.6%)1耳完全聾1耳部分聾ナルモノ11名(20.8%)兩耳共ニ部分聾ナルモノ30名(56.6%)ニシテ、兩耳共ニ聽覺遺殘セルモ、他ニ比シ遙ニ多數ニシテ過半数ヲ越ユ。更ニ之ヲ失官原因別ニ觀察スルニ、先天性聾啞31名ニ於テハ兩耳共完全聾9名(29.0%)、1耳完全聾1耳部分聾7名(22.6%)兩耳共部分聾15名(48.4%)ヲ示シ、後天性聾啞22名ニ於テハ兩耳共完全聾3名(13.6%)1耳完全聾1耳部分聾4名(18.2%)、兩耳共部分聾15名(68.2%)ニシテ、原因別ニ觀察スレバ先天性聾啞ハ兩耳共完全聾及ビ1耳完全聾1耳部分聾ノモノ後天性聾啞ニ比シ高率ヲ示シ、兩耳

共部分聾ハ反之後天性聾啞ハ遙ニ高率ヲ示セリ。内田氏ノ支那人聾啞ニ就キ檢セル所ニヨレバ、119名中兩耳共完全聾ナルモノ37名(40.66%)、辰巳氏ハ大阪地方ノ聾啞ヲ檢シ79名中兩耳共完全聾9名(11.4%)、二宮・曾木・成瀬氏等ガ熊本地方聾啞兒ニヨリ得タル成績ハ78名中兩耳共完全聾35名(44.5%)ニシテ、之ヲ著者等ノ成績ニ比スレバ、辰巳氏ノ報告ハ北陸地方ノ聾啞兒ヨリ兩耳共完全聾ヲ有スルコト遙ニ尠ナキヲ示スモ、他ハ高率ヲ示セリ。而シテ原因別ニヨリ觀察スルニ内田氏ハ先天性聾啞ノ40.66%ハ兩耳共完全聾ニ屬シ、後天性聾啞ハ71.43%ノ高率ヲ示シ、二宮・曾木・成瀬氏ハ先天性聾啞ノ52.5%、後天性聾啞ノ35.5%ハ兩耳共完全聾ニシテ、兩者ノ報告ハ著者等ノ檢査成績ニ比シ遙ニ高率ヲ示スモノニシテ、内田氏ノ先天性聾啞ノ兩耳聾啞百分率ハ後天性聾啞ニ比シ低率ナルハ著者等ノ報告ト異ナレリ。

第5章 總 括

内耳ハ蝸牛殻ト前庭半規管器トニ分タレ、其ノ機能ハ蝸牛殻ニ於テハ聽覺ノ管掌ヲナシ、前庭半規管ハ其ノ官能未解決ノ點尠ナカラズト雖モ、身體ノ均衡、頭部並ニ身體ノ位置及ビ運動ノ感覺及ビ軀幹筋ノ緊張能力ノ維持ニ關係スルモノノ如シ。著者等ハ内耳機能ノ一部ナル聽覺ヲ聾啞兒53名108耳ニ就キ檢索シ、之ガ精細ナル分類ヲ行ヒタリ。蓋シ聾啞ニ聽覺ノ遺殘セルコト尠ナカラザルハ先進諸家ニヨリ明ラカニセラレタル所ナリト雖モ、北陸地方聾啞兒ニ就キテハ本成績ヲ以テ嚆矢トス。聾啞教育指導ニ當リ本成績ヲ參考トシ、以テ口話教育實施ニ當ラバ該教育進展ニ資スル所尠ナカラザルベシト信ズ。

而シテ著者等ノ得タル成績ヲ總括スレバ、

1) 被檢106耳中完全聾35耳(33.0%)、部分聾71耳(67.0%)ニシテ、之ヲ失官原因別ニ觀察スレバ、先天性聾啞62耳中完全聾25耳(40.3%)、部分聾37耳(59.7%)ニシテ、後天性聾啞44耳中完全聾10耳(22.7%)、部分聾34耳(77.3%)ヲ得タリ。

2) 聽覺ヲ全然消失セザル部分聾ニ就キ、Bezold氏ノ分類法ニヨリ分別スルニ、第1類最モ多ク、次デ第2類、第6類ノ順序ニアリ。之ヲ原因別ニ觀察スルモ第1類共ニ最多ニシテ、先天性聾啞ハ第2類、第6類ノ順ニシテ、後天性聾啞ハ第6類、第2類ノ順序ニアリ。

3) 先天性聾啞中血縁關係ヲ有スルモノト、然ラザルモノニ分別シ、聽覺程度ヲ觀察スルニ前者22耳中完全聾6耳(27.4%)、後者40耳中完全聾19耳(49.5%)ナリキ。

4) 後天性聾啞ノ原因別ニヨリ聽覺程度ヲ觀察スルニ、腦及ビ腦膜疾患ニヨルモノノ完全聾最モ多ク、次デ中耳疾患ニヨルモノ、麻疹ニヨルモノ、外傷ニ基因スルモノノ順序ニアリ、腸チフス、肺炎、佝僂病ニヨルモノニ於テハ完全聾ヲ認メザリキ。

5) 53名中兩耳共完全聾ナルモノ12名(22.6%)、片耳完全聾片耳部分聾ナルモノ11名(20.8%)、兩耳共部分聾ナルモノ30名(56.6%)ニシテ、兩耳共完全聾ノ比較的尠キハ口話教育遂行上幸ナルコトナラン。

攞筆スルニ臨ミ御指導御校閱ヲ賜リタル松田教授ニ深謝ス。

Literatur.

- 1) 二宮, 曾木, 成瀬, 熊本縣立盲啞學校聾啞部生徒ニ就テノ統計的並ニ臨牀的觀察. 大日本耳鼻咽喉科會報(以下會報ト略ス), 39卷, 12號. 2) Bezold : Die Taubstummheit und Taubstummunterricht Deut. med. Wochenschr. Bd. 48, 1904. 3) A. Denker u. Brühning : Lehrbuch der Krankheiten des Ohres und der Luftwege. 4) A. Denker u. O. Kahler : Handbuch der Hals-Nasen-Ohrenheilkunde Bd. 8. 5) 加藤, 聾啞兒ノ殘聽. 耳鼻咽喉科臨牀, 22卷, 3號. 6) 細谷, 新撰耳鼻咽喉科學. 7) 近藤, 聾啞兒ノ聽器檢査成績ニ就キテ. 會報, 35卷, 3號. 8) 辰巳, 聾啞ニ就テ. 會報, 36卷, 6號. 9) 久保, 大日本耳鼻咽喉科全書, 第3卷. 10) 豊田, 石黒, 前田, 北陸地方ニ於ケル聾啞兒ノ研究. 第1, 第2, 第3, 十全會雜誌. 11) 内田, 支那人ニ於ケル聾啞ノ研究. 會報, 34卷, 第3, 第4號.